



日本財団 助成事業
The Nippon Foundation

湖沼環境の基盤情報整備事業報告書

—豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために—

支笏湖

平成 17 年 4 月



社団法人 日本水産資源保護協会

はじめに

我が国の湖沼は、漁業、利水、観光などの場として昔から国民に広く利用されています。しかし、閉鎖性水域である湖沼は、周辺森林の伐採、観光開発などの人為的な環境変化の影響を受けやすく、泥土の流入や富栄養化の進行、更には化学物質による水質汚染などが問題となっています。また、最近では、違法に放流された外来魚などによる湖沼生態系の攪乱、交雑による遺伝的汚染、在来種の食害による漁業被害など新たな問題が指摘されています。

多くの国民が親しみ、利用する湖沼の多くは、良好な自然環境を維持し、次世代にその環境を継承することが難しくなっております。将来とも豊かな自然からの恵みを享受するためには、如何にして自然環境を保全するかを明確にすることが求められています。そのためには、対象とする湖沼にかかわる生物的、化学的および物理的環境情報並びに社会的条件の現状と歴史の変遷などを科学的知見に基づいて収集・整理する必要があります。

本事業では、日本財団の船舶関係事業等に寄与する事業の振興を目的とした事業の助成を受けて、昔から多くの国民に利用されている湖沼の中からヒメマスに移殖が行われた3つの湖を対象として自然環境並びに社会環境情報等を収集整理し、関係機関の自然保全対策や国民の環境に対する理解に役立つ基盤情報を整備・提供することとしました。

平成14年度には中禅寺湖をはじめとする奥日光湖沼群を、平成15年度には十和田湖を対象として、湖と周辺域の歴史と現状、湖沼環境や生息生物、ヒメマスの資源や移殖の経過などをまとめました。本年度は、支笏湖を対象として過去2カ年と同様な項目についての情報とともに、ヒメマスの移殖の原点を探り、移殖マップ等を作成し、湖沼環境の保全や漁業と遊漁の共存について取りまとめました。

情報収集・調査等について多大のご協力をいただいた独立行政法人さけ・ます資源管理センター、北海道水産林務部漁業指導課、同水産孵化場、同水産孵化場道東支場、千歳市産業振興部観光振興課の各位並びに、各種の資料の提供や現地調査にご協力いただいた独立行政法人さけ・ます資源管理センター千歳支所、同北見支所、同根室支所、津別町、阿寒町、阿寒湖漁業協同組合、中禅寺湖漁業協同組合並びに国土地理院の各位に深く感謝申し上げます。

また、奥日光湖沼群に含まれる「菅沼」のヒメマスについて取りまとめていただいた白旗総一郎博士に感謝申し上げます。

さらに、本年度湖沼環境の基盤情報整備事業専門委員会委員として、専門的立場から種々ご指導いただきました加藤禎一、小林哲夫、栗倉輝彦、眞山紘、河村博並びに帰山雅秀の各氏に衷心より厚くお礼申し上げます。

終わりに、本事業の成果が自然環境に対する理解を深め、環境保全への取り組みの一助となることを期待します。

平成17年4月

社団法人 日本水産資源保護協会
会長 澁川 弘